

編集後記

今年は厳しい年明けである。手強いウイルスはますます勢いづいているし、折からの寒波も手伝って帰省には待ったがかり、初詣や新年の挨拶もままならなかった。今年こそは新型コロナウイルス感染症が収束してほしいと世界中の人が待ち望んでいる。

さて、今年の干支は丑である。丑（牛）には病気を打ち払う力があると古くから信じられており、全国の大満宮には臥した牛の像が設置されている所も多い。学問の神様で有名な菅原道真公を祀った福岡県の太宰府大満宮にも11体の臥牛像があり、参拝客に撫でられている。「撫で牛」と呼ばれ、自分の身体の病んだ部分や具合の悪い部分を撫でたあと、その牛の身体の同じ箇所を撫でると、悪いところが牛に移って病気が治ると信じられているからである。さらに牛の頭部と同じように撫でさえすれば知恵が付くとも信じられている。丑年の今年は是非ともお牛さまにその力を発揮していただき、新型コロナウイルスを吹き飛ばしてほしいものである。

全くの余談ながら、なぜ大満宮には牛なのかという点にも触れてみたい。稻荷神社では狐、八幡宮では鳩が神使として聖なる鳥獣とされているが、菅原道真公を祭神とする大満宮では牛が聖獣とされている。以下、多くの説がある。曰く、道真公は丑の年に生まれ、丑の日に亡くなった。元服の夢に牛が登場した。道真

公自ら「自分の遺骸を牛に乗せて、その牛の行くところにとどめよ」と遺言され、その牛は安楽寺四堂（現在の太宰府大満宮）のほとりで動かなくなり、そこを御墓所と定めた、などである。各地に「牛乗り天神（道真公のこと）」の人形が存在しており、大満宮では「牛」が天神の使いと考えられるようになったものと思われる。

さて、今月の特集テーマは東京大学の田中 栄先生にご企画いただいた「整形外科領域における関節リウマチ診療の現状と将来」である。RA 治療は1990年代後半のメソトレキセート、そして2000年代前半の生物学的製剤によって一変した。薬物治療の進歩とともに治療内容も複雑化しており、整形リウマチ医は常に知識のアップデートが必要である。加えて、整形リウマチ医は整形外科医が担当すべきRA 治療、具体的には手術治療、リハビリテーション、骨粗鬆症治療に関する力量をプロフェッショナルとして上げていく必要がある。本特集では10名の先生方にRA 治療における整形外科医の役割と方向性を含めた、幅広い視点から執筆いただいた。整形外科医によるRA 治療の最新知見に触れていただき、明日の日常診療につながっていくことを期待する。

（中島康晴）

「整形・災害外科」第64巻 第2号（2月号） 2021年2月1日発行（毎月1回1日発行） 定価 2,860 円（本体 2,600 円＋税 10%） 年間購読料金 定価 44,660 円（本体 40,600 円＋税 10%） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
--	--

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。